

2020年3月期 決算説明会 質疑応答要旨

【業績 実績・予想】

Q：品質費用について聞きたい。

A：燃料ポンプ以外の品質費用はやや低減傾向になっている。納入不良の撲滅活動の他、社長、役員、従業員一同品質強化に取り組んでいる。現在、機械系の不良については、設計品質をしっかりとやる、ソフトは初品の検査、自動化で手戻りをなくす、技術の高いパートナーに集中するなどしている。電子部品では、二重系で回路を組む、トレーサビリティの確保、電子部品やソフトはOTAで書き換えができるなどをして費用を低減していく。

Q：今後の合理化、経費の節減についてはどのように考えているか。

A：今年一層強化する。例えば社内トレーニー制度、投資の凍結や先延ばし、ITツール活用による残業、会議、外部への設計委託費削減など、仕事の効率化をすすめる。楽観的状況ではない。

Q：コロナ感染症終息後の考えについて、どんな議論がなされているか。

A：CASEがコロナの後に変わるのでは、という議論はしている。モビリティがどのように変化するか、その中で私たちが貢献できるのは何か。ビジネスにつなげながら社会にどう貢献できるか、今後も成長できるようにやっていく。

【R&D、設備投資】

Q：新型コロナウイルス感染症の影響が長期化した場合、R&Dなどの削減について聞きたい。

A：センサーは技術開発で先行し、市場に貢献する会社だと思っている。少なくとも一律2割カット、というやり方はしないが、売上収益比率9%台でマネジメントしていく。ソフト設計ツールの導入などで、同じ費用で効率を上げていく。当面5,000億円規模は維持し出力を上げて技術で市場に貢献していきたい。研究開発費は火を灯し続ける分野であると考えている。

設備投資は、足元の状況もあるので、凍結、中止、延期、縮小などしていく。売上収益償却費比率6%以下を継続していきたい。売上が減少する可能性もあるので、厳しい規律を以て運用していく。

【株主還元方針】

Q：株主還元の考え方について変化はあるか。

A：配当については長期安定的に行うことが株主の安心と信頼を得られると考えるので基本の考え（機動的に安い時に買う、ある程度安定させる）は変えていない。自己株の取得は手元資金の話もあるので慎重に考えながらやっていく。

以上